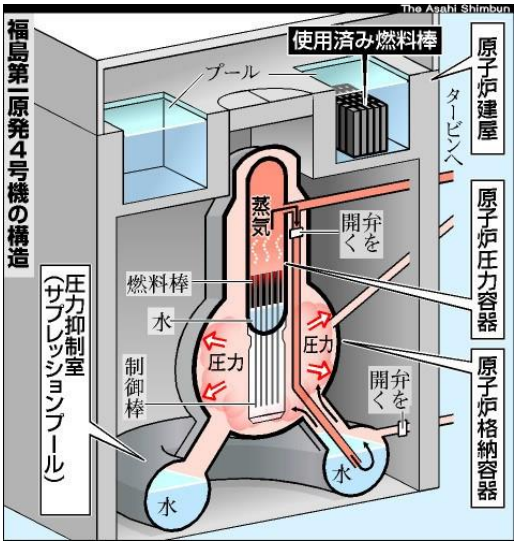
使用済み燃料の燃料プールの危険性



2012 年 7 月新燃料 2 本が取り出されたが

大量の使用済み燃料が地震や水素爆発で損壊した原子炉建屋の 4 階の燃料プールにある。燃料プールが原子炉の上部にあるのは燃料を取り替えるときに、放射線を遮蔽するために水中で移動するためだ。メルトダウンした核燃料と同じくこちらも冷却し続けないと高温になり水素爆発を起こす。2012 年 7 月に 4 号機で新燃料が 2 本取り出されたが新燃料は放射線をあまり出さないからできたことだ。核燃料は燃焼すればするほど核分裂で生じる放射性物質が増加して放射能も大きくなる。

（図１－４）福島第一原子力発電所(1～4 号機)核燃料本数（福島県ＨＰより）

	原子炉	使用済燃料プール		号機計
		使用済燃料	新燃料	
1 号機	(400)溶融	292	100	392
2 号機	(548)溶融	587	28	615
3 号機	(548)溶融	514	52	566
4 号機	0	1,331	202(※2)	1,533(※2)
小計		2,724	382	3,106

＊７月 18 日と 19 日に４号機使用済燃料プールより新燃料を２体取り出したため、２体分減っている。

4 号機の使用済み燃料の数は異常だ。おそらく共用プールが満杯で移動できずに貯蔵場所として使用したと考えられる。その分発熱量も大きく危険だ。東電は耐震工事をして震度 6 強の地震に耐えられるとしているがその根拠は不明だ。それ以上の地震が来て、燃料プールが損壊し使用済み燃料が落下してしまったら、損壊しなくても配管が壊れたり、燃料プールにひび割れが生じたりして、冷却できなくなるともう誰も近づくことはできない。